

災可然歟之由有言談尤可然博覽之人也。如此事尤有謂者哉。廿九日、剪人髮爲狐之所爲事、太平廣記之所見、先日海門和尚被示之旨、無何示出之了、當時室町殿女中人々、面々列座之席、已有此事、未休珍事云々、已知其所爲之時、其物難化、就北斗尤可有御祈禱歟之由、同示出了、

〔燕石雜志〕恠刀禰九尾附

佐渡には狸のみありて狐なし、されば狸の人に憑事ありとぞ、四國へも狐は渡らずといふ也、但近屬讚州へ白狐のわたりしといへり、是否はえらず、

物の妖なる事狐にますものなし、玄かれども物は異類を歡ず、老狐の美女になる事はあり、人の妻となりて子を生ことはなし、狐狸は同種類なれども、狐と狸とまじはりて子を生る事を聞ず、デイヤ犬と矮犬チンとは同物なれども、形の小大短長に便なければ得尾ツシバらず、鴻雁燕雀の類、その形の相似たるも、おのが雌雄に混合せざるは、自然の理なり、

名狸
稱

〔本草和名十五〕獸禽狸骨楊玄操音力之反、虎狸猫狸、又有狐音信一名鷄材、一名禽豹已上出、一名鼠狼出拾和名多々介、

〔倭名類聚抄十八〕毛群名狸 兼名苑云、狸音釐和名太奴木、搏鳥爲糧者也、

〔箋注倭名類聚抄七〕獸名說文、狸伏獸似羆、埤雅、狸似羆而小、文彩班然、異於狸貉、爾雅、翼云、狸者狐之類、狐口銳而尾大、狸口方而身文、黃黑彬々、蓋次於豹、本草衍義、狸形類猫、其文有二、一如連錢者、一

如虎紋、李時珍曰、狸有數種、大小如狐、毛雜黃黑、有斑若猫、而圓頭大尾者爲猫狸、善竊鷄鴨、有斑如羆虎、而尖頭方口者爲虎狸、善食蟲鼠果實、似虎狸而尾有黑白錢文、相間者爲九節狸、

〔類聚名義抄三〕狸音釐、タヌキ、タケ、〔同四〕狸音釐、野猫、タヌキ、タケ、

〔千祿字書平聲〕狸上通、下正、

〔一切經音義〕新華嚴經音義